

# アルファ・ウイン 企業調査レポート

## ピー・シー・エー

### (9629 東証一部)

発行日：2022年1月31日

アルファ・ウイン 調査部

<http://www.awincap.com/>

#### ● 決算速報

#### ◆ 基幹業務用ソフトウェアに特化した專業大手、クラウドで先行し業界NO. 1

- ・ピー・シー・エー株式会社（以下、同社）は、独自に開発した業務用パッケージソフト（会計、販売管理・仕入在庫管理、給与・人事、就業管理など）を、主に中小企業向けにオンプレミスやクラウドにて提供し、保守サービスを行っている。企業の円滑な経営・運営をサポートする「マネジメントサポート・カンパニー」として社会に貢献することを使命としている。業務用ソフトのクラウド（PCA クラウド）では先行し、業界 NO1 の実績を誇る。今後、サブスクリプションビジネスに更にシフトする方針。
- ・近年、ストックビジネスモデルへの転換が奏功、加えて特需の恩恵も享受し業績は好調で、前々期（2020/3 期）は、5 年連続の増収増益、過去最高利益を更新。前期は消費税改正と Windows7 のサポート終了に伴う特需の反動減から減収減益となったが、今期（2022/3 期）は新収益認識基準への変更によるマイナス効果を、製品の更新需要とクラウドの伸長が吸収し、増収増益・増配の予想。
- ・現在、東証一部に上場。2022 年 4 月の東証の新市場区分では、プライム市場に移行する見込み。

#### ◆ 今期第 3 四半期累計決算～製品とクラウドが好調、増収・大幅増益。過去最高益を更新し、通期の同社計画利益をほぼ達成。

##### <2022/3 期第 3 四半期累計（2021/4～12 月）の実績>

- ・同社の 2022/3 期第 3 四半期累計（以下、Q3 累計=4～12 月）業績は、売上高 10,144 百万円（前年同期比=YOY:+7.8%、なお、本レポートでは原則、少数点第 2 位を四捨五入、以下同様）、営業利益 2,563 百万円（同+68.2%）、経常利益 2,599 百万円（同+67.2%）、当期純利益 2,268 百万円（同+115.0%）と、増収かつ大幅な増益となった（P2-図表 1）。Q3 累計利益（営業・経常・当期の各利益）としては、過去最高を更新した。
- ・今期から新収益認識基準を適用しているため、従来基準（旧基準）と比較すると、売上高は 1,323 百万円、営業利益は 157 百万円それぞれ減少している。これらを考慮すると実質的には、売上高 11,467 百万円（YOY：+21.8%）、営業利益 2,720 百万円（同+78.5%）となる。
- ・通期の会社計画（新基準）に対して、Q3 累計での進捗率は売上高 75.1%、営業利益 99.1%、当期利益 98.2%である。特に利益面では通期計画をほぼ達成しており、極めて好調に推移している（P2-図表 1、最右列）。これらは、過去 16 期間にわたる売上高・営業利益（Q3 累計実績）の平均進捗率 69.7%、69.0%を大きく上回る。
- ・Q3 累計では、2021 年 12 月にサポートを終了した「PCA X シリーズ」の更新需要が発生し（DX シリーズへのシフト）、製品売上高（従来型のパッケージソフトウェア:オンプレミス）が前年同期比で倍増し、加えてクラウドサービスは前年同期比で+35.6%と好調であった（P2-図表 1、中央列）。これらが牽引役となり、保守サービス、商品、その他収入の減収を補った。なお、会計基準の変更に伴い、その他収入が YOY で 1,413 百万円（同△63.9%、△はマイナスを意味する）の減収となっているが、旧基準では 263 百万円（同△11.9%）の減収に留まる。また、「クラウド+保守」のストックビジネスの売上高の構成比は、新基準では 64.3%（旧基準でも 58.3%）と過半を占め、事業の継続性と収益性、経営の安定性が増している。

#### ショートレポート

1/7

アルファ・ウイン企業調査レポート(以下、本レポート)は、掲載企業のご依頼によりアルファ・ウイン・キャピタル株式会社(以下、弊社)が企業内容の説明を目的に作成したもので、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。弊社は、本レポートの配信に関して閲覧した投資家の皆様が本レポートを利用したこと、又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。最終投資判断は投資家ご自身においてなされなければならず、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家の皆様にあります。また、本件に関する知的所有権は弊社に帰属し、許可なく複製、転写、引用、翻訳等を行うことを禁じます。

- ・利益面では、増収と利益率の改善が大幅な増益要因となっている。粗利率は会計基準の変更やプロダクトミックスの改善により、前期 Q3 累計の 59.6%から今期には 66.9%に 7.3 ポイント上昇している（旧基準では粗利率は 60.7%で 1.1 ポイント改善）。同様に販管費率は 43.4%から 41.7%に 1.7 ポイント低下し、その結果、営業利益率は 16.2%から 25.3%に 9.1 ポイント上昇している（旧基準では、販管費率は 37.0%と 6.4 ポイント、営業利益率では 23.7%と 7.5 ポイント改善）。
- ・また、上期・下期に分けて投資有価証券を売却し、それぞれ 673 百万円、438 百万円の売却益、合計 1,111 百万円を特別利益として計上した。この結果、当期利益は前期比で倍増した。

【図表 1】第 3 四半期累計の業績と通期計画

業績	2021/3 第 3 四半期累計		2022/3 第 3 四半期累計				2021/3 通期		2022/3 通期予想 CE		通計(会社計画比)
	2020年4-12月	2021年4-12月	累計前年同期比: 差異 円: %		2021年4-12月	前年同期比: 差異 円: %		2020年4月-2021年3月	2021年4月-2022年3月	今期Q3累計(通計率・前年比)	今期Q3累計(通計率・前年比)
単位: 百万円、%	旧収益認識基準	新収益認識基準	単純比較(今期新基準-前期旧基準)	旧収益認識基準	旧収益認識基準	旧収益認識基準にて比較	旧収益認識基準	新収益認識基準	新収益認識基準	新収益認識基準	新収益認識基準
連結売上	9,414	10,144	730	7.8	11,497	2,079	22.0	13,909	13,516	76.1	76.1
種類別	1,178	2,488	1,287	108.9	2,479	1,302	110.9	1,985	3,598	79.9	79.9
商品	384	857	-37	-9.6	807	-37	-4.6	488	398	60.8	60.8
保守サービス	2,479	4,044	-171	-6.9	2,838	-14	-0.5	3,653	3,255	75.9	75.9
クラウドサービス	2,882	4,044	1,082	38.0	4,044	1,082	38.0	4,088	5,458	74.1	74.1
その他営業収入	2,212	789	-1,419	-64.2	1,849	-263	-11.9	3,228	811	69.2	69.2
粗利	5,811	6,790	1,178	21.0	9,889	1,882	24.1	9,001	8,801	75.8	75.8
粗利率(%)	61.8	66.9	7.3	11.8	86.3	1.0	1.0	64.7	64.7	1.1	1.1
販売管理費	4,087	4,227	140	3.4	4,242	155	3.8	5,887	6,314	68.0	68.0
売上高販管比率(%)	43.4	41.7	-1.7	-3.9	36.9	-6.5	-17.6	42.7	46.7	-5.0	-5.0
営業利益	1,824	2,888	1,068	58.6	2,723	1,188	78.5	2,818	2,888	89.1	89.1
営業利益率(%)	19.5	28.3	8.8	45.1	23.7	7.2	30.8	20.2	21.3	6.1	6.1
経常利益	1,854	2,599	1,045	56.4	2,814	1,080	68.2	2,841	2,804	89.0	89.0
経常利益率(%)	19.8	25.6	5.8	29.3	24.5	5.7	23.3	20.4	19.3	5.4	5.4
当期利益	1,086	2,289	1,219	116.0	2,289	1,228	118.4	1,721	2,310	89.2	89.2
当期利益率(%)	11.5	22.4	11.2	97.3	19.9	6.7	31.4	12.3	17.1	5.3	5.3

(出所)決算短信に基づきアルファ・ウイン調査部が作成

<2022/3 期第 3 四半期(2021 年 10~12 月)の実績>

- ・今期 Q3 (2021 年 10~12 月) の 3 ヶ月間でも、売上高は 3,535 百万円 (YOY:+2.9% : 旧基準との単純比較、以下同様)、営業利益 810 百万円 (同+38.2%)、当期利益 819 百万円 (同+75.8%) と、増収増益を維持している (図表 2)。営業利益率は、Q1 から Q3 の順に 29.3%⇒23.7%⇒22.9%と低下傾向にあるが、営業利益額は 975 百万円⇒778 百万円⇒810 百万円と高水準を維持している。
- ・今期と前期の Q3 を種類別売上高で比較すると、商品・保守・その他の 3 区分の売上高は依然マイナスとなっているが、製品とクラウドサービスがそれぞれ YOY で +65.9%、+40.2%と好調である。

【図表 2】四半期業績の推移 (実績と計画)

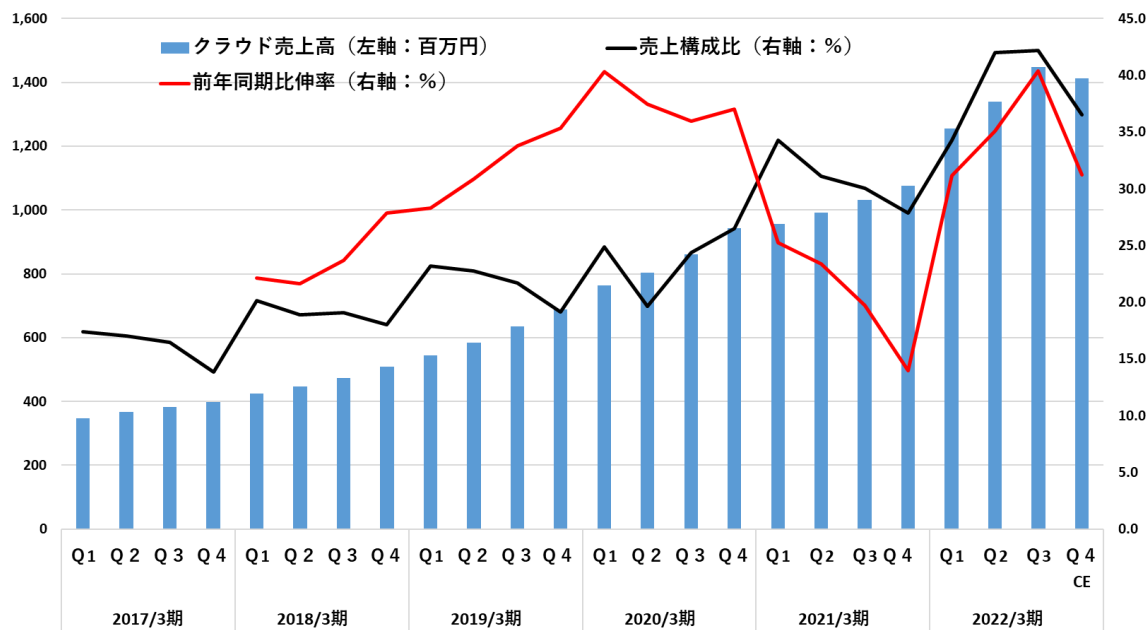
業績	2021/3 第 1 四半期		2021/3 第 2 四半期		2021/3 第 3 四半期		2021/3 第 4 四半期		2022/3 第 1 四半期		2022/3 第 2 四半期		2022/3 第 3 四半期		2022/3 第 4 四半期	
	2020年4-6月		2020年7-9月		2020年10-12月		2021年1-3月		2021年4-6月		2021年7-9月		2021年10-12月		2022年1-3月 OE	
単位: 百万円	旧収益認識基準								新収益認識基準							
連結売上	2,789		3,192		3,433		3,895		3,328		3,281		3,535		3,371	
種類別	307		420		449		809		935		783		745		1,043	
商品	77		88		219		81		88		82		190		38	
保守サービス	899		877		875		902		820		826		833		788	
クラウドサービス	957		1,034		1,078		1,078		1,255		1,340		1,449		1,412	
その他営業収入	548		805		880		1,018		231		250		318		82	
粗利	1,758		1,908		1,946		2,390		2,284		2,222		2,284		2,111	
粗利率(%)	63.0		59.8		56.7		61.4		68.7		67.7		64.6		62.6	
販売管理費	1,290		1,457		1,380		1,600		1,308		1,444		1,474		2,027	
売上高販管比率(%)	46.3		45.6		39.9		41.1		42.3		43.7		41.7		59.8	
営業利益	465		473		568		780		875		778		810		23	
営業利益率(%)	16.7		14.8		16.3		20.0		26.3		23.7		22.9		0.7	
経常利益	471		488		595		787		987		795		817		5	
経常利益率(%)	16.9		15.3		17.3		20.2		29.7		24.2		23.1		0.1	
当期利益	272		317		468		613		614		835		818		42	
当期利益率(%)	9.8		9.9		13.6		15.7		18.4		25.4		23.9		1.2	

(出所)決算短信に基づきアルファ・ウイン調査部が作成。2022/3 第 4 四半期 CE(会社予想)は、「通期会社計画」-「第 3 四半期累計値」。

- ・特にクラウドの売上高は同順に 1,255 百万円⇒1,340 百万円⇒1,449 百万円、YOY では +298 百万円 (+31.1%) ⇒ +349 百万円 (+35.2%) ⇒ +415 百万円 (+40.2%) と、増収額・同率と共に加速している。特需や季節性とは無関係に前年同期比、及び直前の四半期対比でも、クラウド売上高は継続的に増加している (P3-図表 3)。
- ・クラウド会員数 (ストック、P3-図表 4) は、2019 年 3 月に 12,070 法人、2020 年 3 月に 14,327 法人 (前年比 +2,257 法人、+18.7%)、2021 年 3 月に 16,444 法人 (同比 +2,117 法人、+14.8%)、2021 年 12 月 18,578 法人 (同比 +2,134 法人、+12.9%) と順調に積みあがっている (2021 年 4 月~12 月の会員純増数を単純

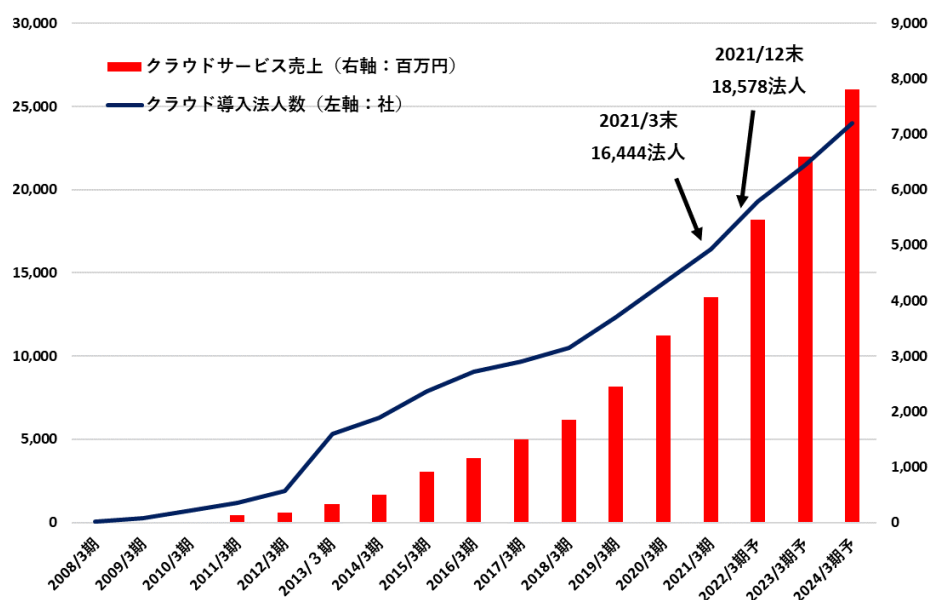
に年換算すると会員数は 19,289 法人に相当、前期末比+2,845 法人、+17.3%)。なお、クラウドによるサブスクリプションビジネスは成長性に加え、継続性と限界利益率が高い。同売上高は種類別売上高では最大となり、同社全体を押し上げる牽引役となっている。

【 図表 3 】クラウドビジネスの四半期別売上高推移



(出所) 決算短信に基づきアルファ・ウイン調査部が作成、(備考)2022/3 期 Q4 (CE)は会社前提。

【 図表 4 】クラウドの年間売上高、及び導入法人数の推移 (実績と予想)



(備考) 2008/3 期～2010/3 期までの売上高は非公表、クラウド法人数は一部推定値を含む。アルファ・ウイン調査部予想。

・今期 Q3 末のバランスシートは、前期末と比較して大きな変化はない。なお、事業での増益と有価証券の売却により、前期末⇒今期 Q3 の順に、現預金が 11,749 百万円⇒14,820 百万円、純資産が同 15,995 百万円⇒17,077 百万円へと増加した。今期計画の売上高、及び Q3 の総資産に対する現預金の比率は、各 109.7% (平均月商の 13.2 ヶ月分と想定年商を超える水準)、53.9%と手元の流動性は潤沢である。また、自己資本比率は 61.0%、流動比率は 213.8%と財務体質は良好である。

## ◆ 第 4 四半期計画と今期以降の業績見通し～保守的な会社予想

### <同社による第 4 四半期計画と通期計画>

・同社は上期の好業績を踏まえ、中間決算公表時 (2021 年 10 月 25 日) に、通期 (2022/3 期) の業績を、売上高：12,447 百万円⇒13,515 百万円、営業利益：1,866 百万円⇒2,586 百万円、当期利益：1,192 百万円⇒2,310 百万円と、期初予想から大幅に上方修正した。将来の成長に向けた投資コストの増加や新収益認識基準の適用の影響もあり、期初には減収減益を見込んでいたが、一転し増収増益の予想となった。

・なお、今通期の会社計画は 2020/3 期に次ぎ、売上高・営業利益は歴代 2 位の水準、当期利益は有価証券売却益に計上により過去最高益を更新する見込みである。

・Q3 累計決算は社内予想を上回ったと推測されるが、新型コロナウイルス感染症の影響が不透明であること、また来年度以降の成長に向けた先行投資の増額を計画しており、同社は通期の見通しを変えていない。同社の通期計画から Q3 累計の実績を差し引くと、Q4 (2022 年 1~3 月) の売上高は 3,371 百万円 (YOY：△13.4%) と減収の見込みとなる。また、将来の成長に向けて販促費や人件費を 3 億円強、期中で増額するなど、Q4 には先行投資負担により販管費が YOY で約 5 億円 (YOY：+30.5%) 急増する計画である。この結果、営業利益率は Q3 の 22.9%から Q4 には 0.7%に急低下し、同利益は 23 百万円 (YOY：△97.1%) へ、当期利益は 42 百万円 (YOY：△93.1%) へと大幅な減益を予想している。

・Q4 の同社による種類別売上高予想 (=「同社通期予想」-「Q3 累積実績」) は以下の通り。

- \* 旧製品 X シリーズから DX シリーズへのバージョンアップが継続する見込みで、前期 Q4 製品売上高 809 百万円、同今期 Q3：745 百万円に対し、Q4 は 1,043 百万円を計画している。但し、製品売上高の増収率 (YOY) は、今期 Q1⇒Q4 の順に、+204.6%⇒+86.3%⇒+65.9%⇒+29.0%と鈍化する想定である。
- \* クラウド売上高は、今期 Q3 の 1,449 百万円 (YOY：+40.2%) から Q4 では 1,412 百万円へと減収の予想 (Q3 比：△37 百万円、△2.6%、YOY：+31.3%) である。
- \* 保守売上高は今期 Q1⇒Q4 の四半期順に、820 百万円⇒826 百万円⇒833 百万円⇒786 百万円を計画している。その他営業収入も、Q3 の売上高 318 百万円から、Q4 には 92 百万円まで急減する想定である。

### <当調査部による今期通期予想>

・Q3 までの累計利益は、今期の同社通期予想にほぼ達成している。Q4 に入ってもファンダメンタルズに大きな変化がないことから、最終的にはこれを上回って着地する可能性が高い。

・また、クラウド、保守、その他営業収入の Q4 の売上は減速する前提だが、特段の要因は見当たらず、Q3 までの実績を踏まえると、同社の通期予想はやや保守的であると考えられる。

・なお、利益の上方修正幅は、製品販売の状況と先行投資を含めた同社のコストコントロール次第となろう。Q4 では意図的に先行投資を積み増し利益が圧縮されると思われるが、Q4 の本来の営業利益は、Q3 並みの 7 億円前後と推定される。

・当調査部では、売上高を 13,760 百万円 (会社計画比+245 百万円)、営業利益 2,700 百万円 (同+114 百万円)、当期利益 2,380 百万円 (同+70 百万円) と会社計画を上回る業績を予想している。上述のように Q3 累計の決算が会社想定を上回っていると推測されること、また売上高・コスト前提が保守的であると

### ショートレポート



考えられることから、売上高・利益とも従来予想を据え置いた (P6-図表 A)。

- ・なお、配当については従来計画 12 円に対し、同社は倍増の 24 円まで増額修正したため (いずれも 1:3 の株式分割を反映済)、当部も会社計画まで予想を引き上げた。今回の 12 円の増配は、1 円の普通配当の増配と、PCA クラウドと PCA サブスクをリブランディング (製品・サービスの名称とロゴマークを変更) したことに伴う 11 円の記念配当から成る。増配の結果、今期の予想配当性向は 20.8% (会社予想の EPS を基準)、同配当利回りは 1.6% (2022 年 1 月 28 日終値 1,545 円を基準) となる。

## <中期業績予想>

- ・現中計の最終年度となる今期の連結数値目標 (修正後) は、前期にほぼ達成した。先行投資を積み増す計画を発表したが (期初比、約+3 億円増額)、今期も目標をクリアする見込みである。また、来期から新中計がスタートするが、戦略・施策と数値目標に注目したい。
- ・当調査部では、来期以降の配当予想金額を、今期の普通配当の増額分 (+1 円) を従来予想に加え修正したが、現時点では前回の中期業績予想 (売上高・利益) を変えてはいない。
- ・なお来期は、製品特需の剥落と有価証券売却益がなくなると思われ、最終減益が予想される。しかし、来々期以降、コロナの影響が緩和される前提のもとに、製品特需の反動減が一巡し、かつクラウドや勤怠管理システムが引き続き成長ドライバーとなり、増収増益基調に戻ると当調査部では予想している。
- ・また、中期的な EPS の年間平均成長率 (平準化ベース) を 8~10% と予想しており、好業績を背景に今後も増配や機動的な自社株買いなどの株主還元も期待される。
- ・一方、成長に向けた豊富なキャッシュの有効活用と次の収益の柱となるビジネスの発掘・育成、並びに既存の新規ビジネス (PCA サブスク、hyper、HR ビジネス、PCA Hub、ヘルスケアビジネス等) を軌道に乗せ収益化することが課題である。

## ◆ 株価水準

### <パフォーマンス>

- ・同社は、サブスクリプションビジネスを展開する内需小型成長株として評価され、2018 年 8 月以降は TOPIX を大きくアウトパフォームしている。直近の約 12 ヶ月間では小型株が軟調である中、TOPIX を若干アンダーパフォームしているものの、好業績を背景に同業他社であるオービックビジネスコンサルタント (OBC: 東証一部 4733) やミロク情報サービス (MJS: 東証一部 9928) を大きくアウトパフォームしている。
- ・Q3 の決算は、利益の高い進捗率や増配が好材料であったが、発表後、利益確定の売りなどに押され株価は下落した。

### <バリュエーション>

- ・東証一部平均 (予想 PER: 14.3、実績 PBR: 1.2、単純平均予想配当利回り: 2.2%) や、同業他社である OBC、MJS と同社のバリュエーションを比較した (2022 年 1 月 28 日終値基準、P6-図表 5)。
- ・東証一部との比較では、同社は今期基準では PER が相対的に低い (但し、特別損益を除いた今期の会社予想利益を基準とすると、今期 PER は約 17.5 倍と試算される)。また、同業 2 社とのバリュエーション比較では、概ね中位にある。

### <今後の見通し>

- ・中期的には、クラウドの伸長の継続により安定成長が予想され、株価も堅調な推移が見込まれる。
- ・なお、クラウドのアカウント数の変化、並びに同売上高伸長率と、新分野の収益寄与、今後の株主還元策や M&A を注視したい。

## ショートレポート

【 図表 5 】 同業他社とのバリュエーション比較

社名	ピー・シー・エー (PCA:連結)	オービックビジネス コンサルタント(OBC:非連結)	ミロク情報サービス (MJS:連結)
コード	9629	4733	9928
株価(1/28終値)	1,545	4,150	1,167
時価総額(百万円)	35,690	312,927	40,619
PER(株価収益率)	13.4	25.9	9.3
PBR(株価純資産倍率)	1.8	2.4	1.6
配当利回り(%)	1.6	1.7	3.3
EV/EBITDA(倍)	7.6	12.5	7.6
PSR(株価売上高倍率)	2.6	9.2	1.1

(出所)アルファ・ウイン調査部が各社の決算短信から作成。PCA、OBCは2022/3期Q3決算を反映。MJSはQ3決算の発表前のため、同Q2までを反映。

(備考) 2022年3期予想より、全社とも「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用

・時価総額=発行済株式総数\*株価(1/28終値)

・EV/EBITDA=(時価総額+有利子負債-現預金)/(営業利益+減価償却+無形固定資産償却等)。なお、営業利益は各社の今期予想値。「有利子負債-現預金」は、Q2またはQ3実績値。「減価償却+無形固定資産償却等」は、2021/3期実績値。

・PERの計算に用いたEPSは、全て2022/3期の各社予想。PBRの計算に用いたBPSは2022/3期Q2またはQ3実績。配当は各社予想。

・PSR=時価総額/売上高(2022/3期各社予想)

【 9629 ピー・シー・エー 業種：情報・通信 】 図表 A												
決算期		売上高 (百万円)	前期比 (%)	営業利益 (百万円)	前期比 (%)	経常利益 (百万円)	前期比 (%)	純利益 (百万円)	前期比 (%)	EPS (円)	BPS (円)	配当金 (円)
2018/3	旧基準	9,785	4.5	807	86.8	834	79.9	441	174.1	21.46	548.13	10.33
2019/3	旧基準	11,439	16.9	1,248	54.7	1,277	53.0	906	105.5	44.42	596.59	10.33
2020/3	旧基準	14,266	24.7	2,781	122.8	2,808	119.9	1,816	100.4	90.97	675.81	18.00
2021/3	旧基準	13,308	-6.7	2,314	-16.8	2,340	-16.7	1,668	-8.1	83.50	791.64	11.33
2022/3	CE 新基準	13,515	1.6	2,586	11.8	2,604	11.3	2,310	38.5	115.52	—	24.00
2022/3	E 新基準	13,760	3.4	2,700	16.7	2,720	16.2	2,380	42.7	119.01	899.31	24.00
2023/3	E 新基準	13,700	-0.4	2,300	-14.8	2,320	-14.7	1,580	-33.6	79.00	954.31	13.00
2024/3	E 新基準	15,000	9.5	2,600	13.0	2,620	12.9	1,780	12.7	89.00	1,030.32	14.00
2021/3	Q1 旧基準	2,789	-9.2	465	-20.7	471	-21.2	272	-25.1	13.66	676.52	0.00
2022/3	Q1 新基準	3,328	19.3	975	109.4	987	109.4	614	125.4	30.75	810.96	0.00
2021/3	Q2 旧基準	3,191	-22.1	473	-60.1	488	-59.0	317	-61.1	15.85	702.75	0.00
2022/3	Q2 新基準	3,281	2.8	778	64.5	795	62.9	835	163.4	41.80	823.79	0.00
2021/3	Q3 旧基準	3,434	-2.9	586	-24.6	595	-23.4	466	-0.6	23.30	734.20	0.00
2022/3	Q3 新基準	3,535	2.9	810	38.2	817	37.3	819	75.8	40.93	838.25	0.00
2021/3	Q4 旧基準	3,894	9.4	790	239.1	786	224.8	613	261.2	30.64	791.64	11.33
2022/3	Q4 CE 新基準	3,371	-13.4	23	-97.1	5	-99.4	42	-93.1	2.40	—	24.00
2021/3	Q3累計 旧基準	9,414	-12.1	1,524	-40.2	1,554	-39.4	1,055	-35.9	52.86	734.10	0.00
2022/3	Q3累計 新基準	10,144	7.8	2,563	68.2	2,599	67.2	2,268	115.0	113.41	838.25	0.00

(備考) CE:会社予想、E:アルファ・ウイン調査部予想。Q1:4-6月決算、Q2:7-9月決算、Q3:10-12月決算、Q4:1-3月決算、Q3累計:4-12月決算  
EPS並びにBPS、配当金の予想は、2021年10月1日の1:3の株式分割を反映(過去に遡及して修正)。

2022/3期より「収益に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用。旧基準は旧収益認識基準、新基準は新収益認識基準。

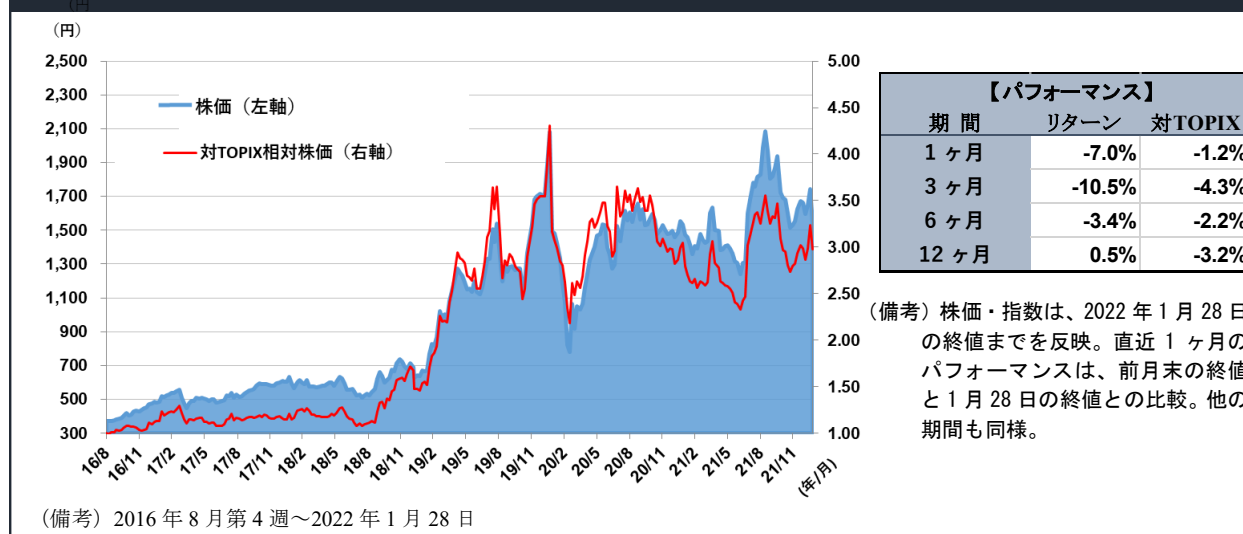
【 株価・バリュエーション指標：9629 ピー・シー・エー 】 図表 B						
項目	2022/1/28	項目	PER(倍)	PBR(倍)	配当利回り	配当性向
株価(円)	1,545	前期予想	18.5	2.0	0.7%	13.6%
発行済株式数(千株)	23,100	今期予想	13.0	1.7	1.6%	20.2%
時価総額(百万円)	35,690	来期予想	19.6	1.6	0.8%	16.5%
潜在株式数(千株)	0	今期Q3末自己資本比率	61.0%	前期ROE	11.4%	

(備考) 予想:アルファ・ウイン調査部予想

ショートレポート

アルファ・ウイン企業調査レポート(以下、本レポート)は、掲載企業のご依頼によりアルファ・ウイン・キャピタル株式会社(以下、弊社)が企業内容の説明を目的に作成したもので、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。弊社は、本レポートの配信に関して閲覧した投資家の皆様の本レポートを利用したこと、又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。最終投資判断は投資家ご自身においてなされなければならず、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家の皆様にあります。また、本件に関する知的所有権は弊社に帰属し、許可なく複製、転写、引用、翻訳等を行うことを禁じます。

【 株価チャート (週末値) 9629 ピー・シー・エー 】 図表 C



\*\*\*\*\*

ディスクレームー

アルファ・ウイン企業調査レポート (以下、本レポート) は、掲載企業のご依頼によりアルファ・ウイン・キャピタル株式会社 (以下、弊社) が作成したものです。

本レポートは、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。弊社は投資家の皆様が本レポートを利用したこと、又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても一切責任を負いません。最終投資判断は投資家ご自身においてなされなければならず、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家の皆様にあります。

本レポートの内容は、一般に入手可能な公開情報に基づきアナリストの取材等を経て分析し、客観性・中立性を重視した上で作成されたものです。弊社及び本レポートの作成者等の従事者が、掲載企業の有価証券を既に保有していること、あるいは今後において当該有価証券の売買を行う可能性があります。

本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。(更新された) 最新のレポートは、弊社のホームページ (<http://www.awincap.com/>) にてご覧ください。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。

本レポートの著作権は弊社に帰属し、許可なく複製、転写、引用、翻訳等を行うことを禁じます。本レポートについてのお問い合わせは、電子メール【[info@awincap.com](mailto:info@awincap.com)】にてお願いいたします。但し、お問い合わせに対し、弊社及び本レポート作成者は返信等の連絡をする義務は負いません。SV2022-0201-1100